

学校評価シート

東海市立上野中学校 住所 東海市名和町奥平戸28 電話番号 052-603-1248 校長名 杉浦早智江		教育目標 ・英気・剛健・協調 輝く学校づくり・つながる・つなげる - 未来を拓く上中生 地域の特色 ・開校68年を越える伝統があり、地域とのつながりを重んじる気質がある。		資料等		
中期目標	今年度の目標	評価方法 (アンケート項目)	結果の分析	課題と対応策	学校関係者評価 【実施日】平成27年2月13日	来年度の改善策 (誰が何をどうする)
英気	「わかる・できる」授業「学ぶことが楽しい」授業の実現に努める。	授業に関するアンケート実施 生徒への質問：5～10, 26～45 教師への質問：9, 10, 16～18 保護者への質問：8	(評価 B) 授業の内容がわかると答えた生徒が、昨年度より若干向上したものの、わからないときに質問しにくいと答えている生徒は昨年同様に約45%いる。また、道徳の授業内容が心に残っていない生徒も、昨年同様に約40%いる。教師では、生徒が考えをまとめたり発表したりする授業を行っている割合が11%増加したが、わかりやすい板書への取組は7%減少、また、授業改善の取組も15%減少という結果である。	わかる授業、楽しい授業を目指し、板書の書き方の力量を向上させるとともに、授業のまとめの段階で振り返りを行う時間を確保していく必要がある。そのときに、質問を受けることは可能となる。教科部会を中心に授業方法の改善策を検討していく。また、道徳の時間の授業力も向上させていくことが必要であることから、研究授業や研究協議の機会を増やしていく。	教師アンケート結果から、子どもの授業内容の理解度についての割合が30%減少している点を改善していく必要がある。減少したと感じる子どもの様子の把握と原因の追及、そして、対応策を検討していったほしい。また、道徳については、心に残る授業を進めていくために、豊かな表情で行うこと、授業内容を工夫することに心がけていったほしい。	教務主任と現職教育主任を中心に、授業のねらいの明確化、まとめの段階での振り返り、生徒の実態の見取り方等、教師の力量向上のための研修を企画する。また、研究授業実践を継続し、お互いに協議する中で授業力の向上を図っていく。
剛健	「四つの心(掃除, 挨拶, 走る, 読書)」を核に、さわやかで逞しい生徒の育成を目指す。	「四つの心」に関するアンケート実施 生徒への質問：4, 15, 16, 19 教師への質問：22, 23 保護者への質問：10 地域住民への質問：6	(評価 A) さわやかでたくましい生徒になるうとしている生徒の割合は昨年より若干向上している。また、読書活動の取組や挨拶の心がけも2%向上し、清掃活動については、教師の指導の向上とともに生徒の取組が16%向上している結果である。	生徒は日頃から挨拶することを心がけているが、地域の中では十分に行われていない。地域ボランティア活動の参加をより促すとともに、地域から支えられていることや守られていることの話をし、事前指導で助言を繰り返して意識を向上させていく。	生徒たちはおとなしく、落ち着いた学校生活を送っている。さまざまな活動や取組の場面で、よりいっそう特性をのばせていける可能性をもっている。教師は生徒たちに目標をもたせ、活動を明確にして取組を継続していくことが大切である。	全教職員で清掃や読書活動に対する取組の指導を継続していく。また、担任は道徳や学級活動の時間に、地域の一員としての自覚を高めさせる講話(挨拶等)を行っていく。
協調	「つながる・つなげる - 未来を拓く上中生 -」をテーマに輝く学校づくり事業を推進する。	「つながる・つなげる - 未来を拓く上中生 -」に関するアンケート実施 生徒への質問：24 教師への質問：21, 24 保護者への質問：9	(評価 B) 昨年度からの取組の継続により、将来の希望や夢をもつ生徒の割合が3%向上している。しかし、キャリア教育や輝く学校づくり事業の推進に対する取組が不十分と考えている教員が20%いる。また、保護者が輝く学校づくり事業について理解できていない割合が、昨年度と同様に30%を越えている結果である。	キャリア教育や輝く学校づくりの活動について、共通理解のもと推進していくことが課題である。また、保護者、地域の方々への活動の様子の伝え方も課題である。活動の様子をホームページや学校からの通信などで今まで以上に発信していくとともに、学校と家庭、地域とのつながりを深めていく。	生徒たちの希望や夢を大切に、キャリア教育の推進を行ってほしい。教師自身の取り組み意識や指導力が減少した結果となったのは、年度当初の目標や活動方針の押さえが不十分であったからである。職員全体が共通理解のもと推進してほしい。学校の様子については、日頃から、保護者や地域への情報提供を今以上に効果的に行っていくことが必要である。	全職員がキャリア教育をはじめ、さまざまな教育活動について、年度当初の職員会議で共通理解の徹底を図る。また、随時、活動状況を把握し、全職員で方針の確認と協議を行い、取組の改善を図っていく。活動の様子について、ホームページや通信を充実させて情報提供を行っていく。
地域連携	地域や保護者とともに歩み、開かれた学校の創造を目指す。	ボランティア・学校行事協力に関するアンケート実施 保護者への質問：19, 20 地域住民への質問：2, 9, 10	(評価 B) 学校公開等に積極的に参加すると答える保護者は、昨年度と同様に80%を越えている。また、中学校は地域行事に協力的と答える地域の方々には昨年度以上で100%となっている。しかし、地域の方々の結果から、中学校の教職員の対応の良さについては、昨年度より13%減少している結果となっている。	今後も、地域行事や学校行事の協力体制を維持しながら、相互に充実感を得られる取組を継続していく。職員の保護者や地域に対する挨拶、対応についての指導助言を繰り返すとともに、地域行事への協力、参観も促していく。	生徒のボランティア活動の参加はとてよいが、中には挨拶がしっかりできない生徒もいた。学校と地域が一体となって育っていくことが大切である。	来年度も生徒のボランティア活動が積極的に行えるように声かけを行っていく。参加するときの心構えや態度について、担当教員や担任から指導助言をする。